

立川病院 病院指標（独自集計）

平成30年4月～平成31年3月

1) 年齢階級別退院患者数

2) 診断群分類別患者数等（診療科別患者数上位5位まで）

- | | | |
|--------|--------|---------|
| ・内科 | ・小児科 | ・脳神経外科 |
| ・神経内科 | ・外科 | ・産婦人科 |
| ・呼吸器内科 | ・血管外科 | ・産科・婦人科 |
| ・循環器内科 | ・呼吸器外科 | ・眼科 |
| ・消化器内科 | ・消化器外科 | ・耳鼻咽喉科 |
| ・内分泌内科 | ・乳腺外科 | ・皮膚科 |
| ・腎臓内科 | ・整形外科 | ・泌尿器科 |
| ・血液内科 | ・形成外科 | |

3) 初発の5大がんのUICC病期分類別並びに再発患者数

4) 成人市中肺炎の重症度別患者数等

5) 脳梗塞のICD10別患者数等

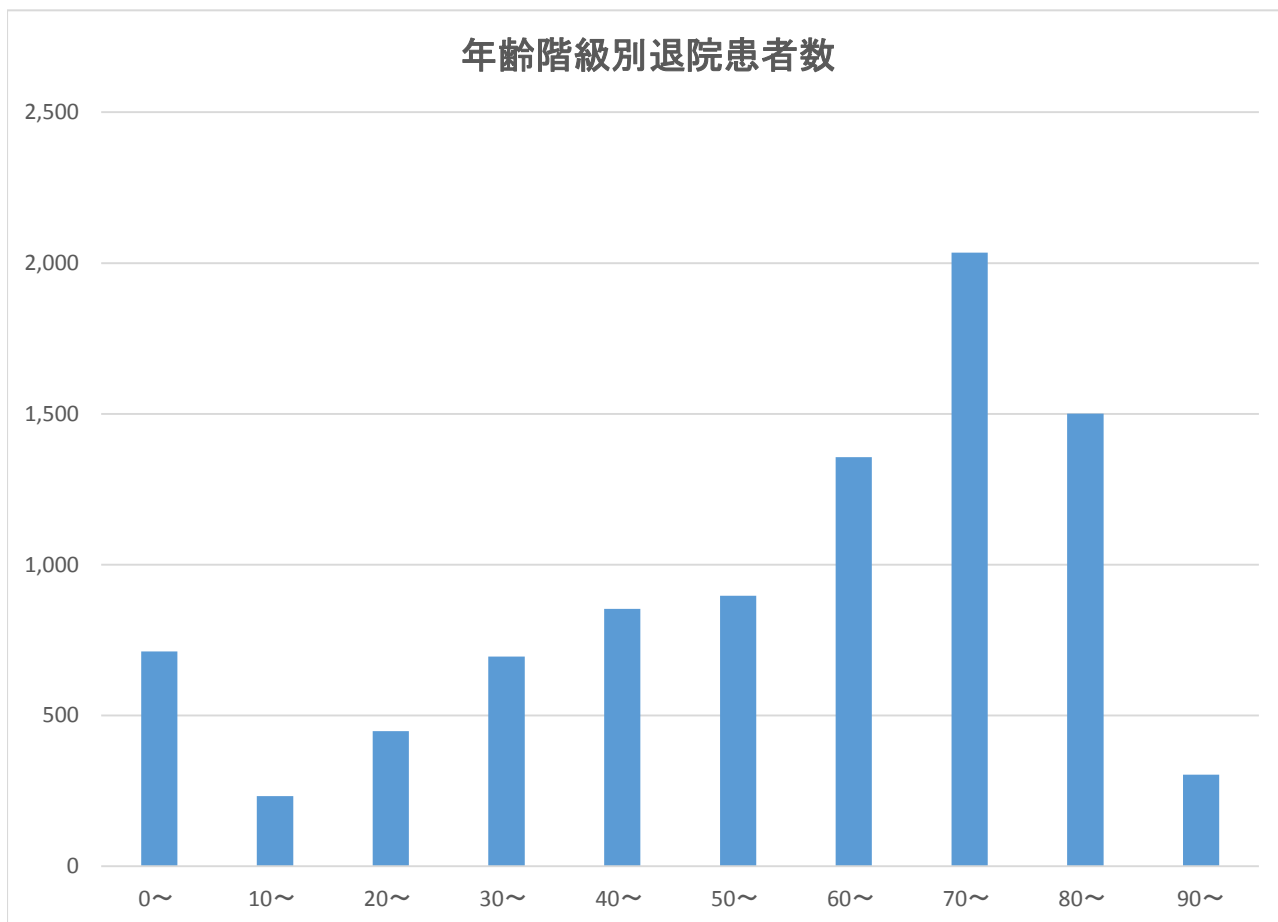
6) 診療科別主要手術別患者数等（診療科別患者数上位5位まで）

- | | | |
|--------|--------|---------|
| ・内科 | ・呼吸器外科 | ・産婦人科 |
| ・循環器内科 | ・消化器外科 | ・産科・婦人科 |
| ・消化器内科 | ・乳腺外科 | ・眼科 |
| ・小児科 | ・整形外科 | ・耳鼻咽喉科 |
| ・外科 | ・形成外科 | ・皮膚科 |
| ・血管外科 | ・脳神経外科 | ・泌尿器科 |

7) その他（DIC、敗血症、その他の真菌症および手術・術後の合併症の発生率）

1) 年齢階級別退院患者数

退院患者さんの人数を、10歳刻みに集計しています。年齢は入院時の年齢になります。



年齢階級別退院患者数

年齢区分	0～	10～	20～	30～	40～	50～	60～	70～	80～	90～
患者数	712	233	448	695	853	897	1,356	2,034	1,501	304

当院の患者さんを年齢別で見ると、大きな特徴として9歳以下の患者さんが多いということです。小児患者、特に新生児における近隣病院シェアで最も多くのシェアとなっています。また、女性疾患や周産期の治療でも地域シェアトップとなっているため、出産時における母体の管理から新生児の処置まで関係診療科が連携し、一貫した治療を行っています。

全体では60歳代以降の患者さんが57.5%で約6割を占めており、高齢化社会の中で地域の中核病院としての役割を担っています。患者さんにとって最善の治療を各診療科が連携しながら、手術や化学療法・救急など様々な高度医療を患者さんに提供しています。

2) 診断群分類別患者数等（診療科別患者数上位5位まで）

内科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数		転院率	平均年齢	患者用パス
			自院	全国			
130030xx99x40x	非ホジキンリンパ腫 手術なし 手術・処置等2 4あり 定義副傷病 なし	122	16.46	16.17	0.00%	70.25	
060100xx01xx0x	小腸大腸の良性疾患（良性腫瘍を含む。） 内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術 定義副傷病 なし	91	4.80	2.67	0.00%	68.73	
050130xx99000x	心不全 手術なし 手術・処置等1 なし 手術・処置等2 なし 定義副傷病 なし	79	21.47	17.66	2.53%	79.73	
040040xx99040x	肺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等1 なし 手術・処置等2 4あり 定義副傷病 なし	65	7.58	10.00	0.00%	70.69	
110310xx99xx0x	腎臓または尿路の感染症 手術なし 定義副傷病 なし	45	14.33	12.58	6.67%	75.89	

内科で最も症例数が多いのは、非ホジキンリンパ腫に対し化学療法を行った症例です。北多摩西部の医療圏で多くのシェアを占めております。平均在院日数は重症患者も多いことから16.46日と全国平均よりやや長い在院日数となっておりますが、計画的な化学療法で入院される患者さんも多く、約半数は全国の平均在院日数よりも短い期間で退院されます。血液の内科医は3名在籍しています。

2番目に症例数が多いのは大腸ポリープなど小腸大腸の良性疾患です。平均在院日数が全国より長くなっていますが、治療が標準化されており消化器内科の医師4名が在籍しています。

3番目に症例数が多いのは心不全です。平均在院日数は全国平均よりやや長くなっていますが、緊急の循環器疾患にも幅広く対応しています。循環器の内科医師は7名在籍しています。

4番目に症例数が多いのは肺がんの化学療法です。当院はがん治療に力を入れており、手術だけでなく化学療法や緩和治療など幅広く対応しております。呼吸器の内科医は4名在籍しています。

5番目に症例数が多いのは腎臓または尿路の感染症です。腎臓の内科医は2名在籍しており、腎・尿路疾患にも幅広く対応しています。

神経内科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数		転院率	平均年齢	患者用パス
			自院	全国			
010060x2990401	脳梗塞 3日以内かつJCS10未満 手術なし 処置1なし 処置2:ラジカット(4) 副傷病なし RankinScale0~2	38	22.45	16.18	10.53%	73.21	
010170xx99x00x	基底核等の変性疾患 手術なし 処置2なし 副傷病なし	17	16.35	14.37	0.00%	70.65	
010160xx99x00x	パーキンソン病 手術なし 処置2なし 副傷病なし	15	19.20	17.67	13.33%	75.93	
010230xx99x00x	てんかん 手術なし 処置2なし 副傷病なし	11	8.82	7.28	0.00%	54.73	
010060x0990401	脳梗塞 4日以降かつJCS10未満 手術なし 処置1なし 処置2:ラジカット(4) 副傷病なし RankinScale0~2	-	-	16.75	-	-	

神経内科で最も多い症例は、急性期脳梗塞に対する治療です。急性期脳梗塞は、いかに早く治療を開始するかが重要です。当院では医師による治療とともに療法士によるリハビリテーション等を行い、患者さんの予後が良好となるよう支援も行っていきます。

当院では、超急性期治療が終わった後も、そのまま当院でリハビリテーションを継続することが多いため、平均在院日数は全体的に長めになっています。

2番目は基底核等の変性疾患です。平均在院日数は16日で、主にレスパイト入院や薬物療法、リハビリテーションを目的として来られる患者さんが多くなっています。レスパイト入院は、在宅介護などで家族や介護者が体力的・精神的に限界となり、介護不能になることを予防する目的での短期間の入院を指します。

呼吸器内科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数		転院率	平均年齢	患者用パス
			自院	全国			
040040xx99040x	肺の悪性腫瘍 手術なし 処置1なし 処置2:化学療法ありかつ放射線療法なし(4) 副傷病なし	65	7.58	10.00	0.00%	70.69	
040110xxxxx0xx	間質性肺炎 処置2なし	43	20.30	19.06	6.98%	77.09	
040040xx9910xx	肺の悪性腫瘍 手術なし 処置1:気管支ファイバースコープ等 処置2なし	32	2.59	3.43	0.00%	69.56	
040081xx99x00x	誤嚥性肺炎 手術なし 処置2なし 副傷病なし	31	23.86	20.92	18.92%	82.14	
040040xx9900xx	肺の悪性腫瘍 手術なし 処置1なし 処置2なし	31	12.52	14.58	6.45%	77.13	

呼吸器内科のDPCコードに基づく症例で最も多いのは肺がんの化学療法です。平均在院日数は7.58日ですが、実施する化学療法の内容や患者さんの体調、病状により在院日数は異なります。

2番目に多い症例は間質性肺炎です。平均在院日数は20.30日となっていますが、日数にばらつきがあります。

3番目に多い症例は肺がんの短期の検査入院です。平均在院日数は2.59日となっています。

4番目に多い症例は誤嚥性肺炎は80代～90代の患者さんが全体の7割以上を占めており、全国平均より長い在院日数となっています。

現在、4名の呼吸器内科医で、多くの患者さんの診療を行っています。

循環器内科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数		転院率	平均年齢	患者用パス
			自院	全国			
050130xx99000x	心不全 手術なし 処置1なし 処置2なし 副傷病なし	72	20.93	17.66	0.14%	79.92	
050050xx02000x	狭心症、慢性虚血性心疾患 経皮的冠動脈形成術等 処置1なし 処置2なし 副傷病なし	42	5.05	4.47	0.00%	68.21	
050050xx99100x	狭心症、慢性虚血性心疾患 手術なし 処置1:心臓カテーテル法による諸検査 処置2なし 副傷病なし	31	3.16	3.01	6.45%	66.42	
050130xx99020x	心不全 手術なし 処置1なし 処置2:シンチグラム等(2) 副傷病なし	18	30.72	24.68	11.11%	79.39	
050030xx97000x	急性心筋梗塞、再発性心筋梗塞 その他の手術 処置1なし 処置2なし 副傷病なし	17	14.47	12.52	0.00%	70.53	

循環器内科で最も症例数が多いのは心不全です。お薬を用いた治療がメインとなります。当院では緊急の循環器疾患にも幅広く対応しております。

2番目に多い症例は狭心症などの虚血性心疾患に対する手術目的の入院です。カテーテルを用いて狭窄病変を拡張する手術になります。計画的な入院であれば、カテーテル検査同様、比較的短い日数で退院することが可能です。

3番目に多い症例は、狭心症に対するカテーテル検査入院です。カテーテル検査入院は、診療内容が標準化された効率的な医療を行っており、比較的短い日数で退院することが可能です。

当院は循環器内科医が7名おり、質の高い医療を提供しております。また、年々症例数を伸ばし、地域の中核病院として大きな役割を果たしています。

消化器内科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数		転院率	平均年齢	患者用パス
			自院	全国			
060100xx01xx0x	小腸大腸の良性疾患 内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術 副傷病なし	90	4.76	2.67	0.00%	68.57	
060102xx99xxxx	穿孔または膿瘍を伴わない憩室性疾患 手術なし	30	10.03	7.75	0.00%	62.03	
060300xx99x00x	肝硬変 手術なし 処置2なし 副傷病なし	26	17.92	12.15	3.85%	68.96	
060340xx03x00x	胆管結石、胆管炎 限局性腹腔膿瘍手術等 処置2なし 副傷病なし	22	14.55	10.08	0.00%	74.32	
060380xxxxx0xx	ウイルス性腸炎 処置2なし	15	7.20	5.42	0.00%	64.27	
060390xxxxx0xx	細菌性腸炎 処置2なし	15	13.60	7.30	0.67%	52.53	

消化器内科の症例で最も多いのは、大腸ポリープに対する内視鏡治療で、症例数は90件、平均在院日数は4.8日です。

2番目に多い症例は、大腸憩室に対する治療で、件数は30件です。大腸憩室は腹痛、血便などの症状があり、絶食による腸管の安静や、抗生剤で治療を行います。

3番目に多い症例は、肝硬変に対する治療で、症例数は26件となっています。

4番目に多いのは総胆管結石などの内視鏡治療であり、症例数は22件です。内視鏡手術のほか抗生剤治療や血液検査、画像検査などを実施します。当院は重症の患者さんも受け入れているため、平均在院日数が長くなっています。

5番目に多いのはウイルス性腸炎および細菌性腸炎に対する治療となっています。

内分泌内科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数		転院率	平均年齢	患者用パス
			自院	全国			
100070xx99x100	2型糖尿病(末梢循環不全なし) 手術なし 処置2:インスリン製剤(注射薬に限る)(1) 副傷病なし 85歳未満	19	18.58	13.90	0.00%	59.89	
100070xx99x110	2型糖尿病(末梢循環不全なし) 手術なし 処置2:インスリン製剤(注射薬に限る)(1) 副傷病:認知症等 85歳未満	-	-	15.51	-	-	
110310xx99xx0x	腎臓または尿路の感染症 手術なし 副傷病なし	-	-	9.12	-	-	
100070xx99x000	2型糖尿病(末梢循環不全なし) 手術なし 処置2なし 副傷病なし 85歳未満	-	-	11.05	-	-	
100040xxxxx00x	糖尿病性ケトアシドーシス、非ケトン昏睡 処置2なし 副傷病なし	-	-	13.50	-	-	

糖尿病・内分泌代謝内科の症例で主な入院は糖尿病の教育入院です。高血糖のため代謝失調を起こされている方(ケトアシドーシス)は緊急入院となることがあります。

入院中は血糖コントロールや合併症の検索に加え糖尿病教育(栄養相談や糖尿病教室)を行っています。インスリンで治療することもあります。病態に応じて内服薬や食事療法のみで治療することもあります。

血液内科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数		転院率	平均年齢	患者用パス
			自院	全国			
130030xx99x40x	非ホジキンリンパ腫 手術なし 処置2:リツキサン(4) 副傷病なし	121	16.16	16.17	0.00%	70.11	
130030xx97x40x	非ホジキンリンパ腫 その他の手術 処置2:リツキサン(4) 副傷病なし	33	30.94	32.36	0.00%	74.88	
130010xx97x2xx	急性白血病 その他の手術 処置2:化学療法(2)	24	53.04	40.13	8.33%	66.79	
130030xx99x30x	非ホジキンリンパ腫 手術なし 処置2:化学療法ありかつ放射線療法なし(3) 副傷病なし	21	16.62	17.10	0.00%	77.48	
130030xx99x50x	非ホジキンリンパ腫 手術なし 処置2:トリアキシン等(5) 副傷病なし	19	15.95	13.75	0.00%	78.11	

当院の血液内科では、様々な造血器疾患の治療を行っています。入院して治療を行うのは悪性疾患に対する化学療法目的が中心で、当院のDPCにおける上位5疾患すべてが化学療法治療のための入院となっています。

最も多い症例は非ホジキンリンパ腫（びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫など）の治療で、リツキサンなどの化学療法が主となっています。平均在院日数は16.16日と、重症患者さんも多いですが標準的な治療計画で入院される患者さんも数多くおられ、約半数の患者さんは全国の平均在院日数より早く退院しています。

非ホジキンリンパ腫における2017年度の近隣医療機関のシェアは約50%を占めており、地域の中枢病院として多くの患者さんの治療にあたっています。

2番目に多い症例も非ホジキンリンパ腫（びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫など）の治療で、リツキサンなどの化学療法が主となっており、併せて輸血や併存症に対する手術を行っています。

3番目に多い症例は白血病（急性骨髄性白血病など）の化学療法目的の症例となります。入院中は、併せて輸血を行う場合もあります。

腎臓内科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数		転院率	平均年齢	患者用パス
			自院	全国			
110280xx99000x	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全 手術なし 処置1なし 処置2なし 副傷病なし	32	11.88	12.05	0.03%	62.50	
110280xx991x0x	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全 手術なし 処置1:経皮的針生検法 副傷病なし	18	7.44	7.18	0.00%	52.61	
110280xx99010x	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全 手術なし 処置1なし 処置2:人工腎臓(1) 副傷病なし	13	19.77	14.21	0.00%	65.54	
110280xx02x00x	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全 動脈形成術、吻合術 その他の動脈等 処置2なし 副傷病なし	12	8.08	8.75	0.00%	60.17	
110310xx99xx0x	腎臓または尿路の感染症 手術なし 副傷病なし	12	14.58	12.58	0.08%	76.33	

腎臓内科では、健診での検尿異常から末期腎不全まで腎疾患全般の診療を行っています。

進行性腎炎、慢性腎炎症候群、ネフローゼ症候群等は、積極的に腎生検を施行し診断、治療方針を決定しています。

進行した慢性腎不全に対しては療法選択の説明を行い、治療方針を決定しています。血液透析を選択した場合は、入院の上、血液透析導入を行います。また透析導入後のシャントトラブルにも対応しています。

最近では、腹膜透析の症例も増えていて、血液透析との併用療法も行っています。

当院の透析センターは、血液透析を導入・開始するために腎臓内科に入院した急性・慢性腎不全の患者さんはもちろん、他院で維持透析中で、検査・手術目的、合併症の治療のため入院した患者さんの入院中の透析管理も行っています。また、通院での維持透析も対応しています。

血液透析以外の特殊血液浄化療法（持続緩徐式血液濾過透析、エンドトキシン吸着、膜分離型単純血漿交換、二重膜濾過血漿交換、免疫吸着血漿交換、ビリルビン吸着、腹膜濾過濃縮再静注法等）も各診療科で必要とされる時に施行しています。

小児科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数		転院率	平均年齢	患者用パス
			自院	全国			
140010x199x00x	妊娠期間短縮、低出産体重に関連する障害（出生時体重2500g以上） 手術なし 手術・処置等2 なし 定義副傷病 なし	86	6.74	6.17	5.81%	0.00	
040090xxxxxx0x	急性気管支炎、急性細気管支炎、下気道感染症（その他） 定義副傷病 なし	68	5.84	6.19	1.47%	0.97	
040100xxxxx00x	喘息 手術・処置等2 なし 定義副傷病なし	53	5.91	6.62	0.00%	2.81	
0400801199x00x	肺炎等（1歳以上15歳未満） 手術なし 手術・処置等2 なし 定義副傷病 なし	37	6.49	5.71	2.70%	1.89	
140010x197x1xx	妊娠期間短縮、低出産体重に関連する障害（出生時体重2500g以上） 手術あり 手術・処置等2 1あり	37	10.81	13.30	5.41%	0.00	

小児科では、幅広い小児内科疾患の診療・治療を行っています。

特にNICU（新生児集中治療室）では早産児・低出生体重児・新生児一過性多呼吸などの呼吸障害症例、薬物（母体）離脱症候群症例などが多くを占め、入院数が多くなっています。

NICU症例以外では、呼吸器系感染症、消化器系感染症、気管支喘息などの症例が多く、また川崎病、ネフローゼ症候群、小児科領域関連疾患の治療も数多く行っています。

外科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数		転院率	平均年齢	患者用パス
			自院	全国			
060160x001xxxx	鼠径ヘルニア（15歳以上） ヘルニア手術 鼠径ヘルニア等	116	4.41	4.96	0.00%	66.17	
040040xx97x0xx	肺の悪性腫瘍 手術あり 手術・処置等2 なし	58	12.69	11.87	0.00%	69.52	
050180xx02xxxx	静脈・リンパ管疾患 下肢静脈瘤手術等	55	2.00	2.85	0.00%	71.96	
090010xx01x0xx	乳房の悪性腫瘍 乳腺悪性腫瘍手術 乳房部分切除術（腋窩部郭清を伴うもの（内視鏡下によるものを含む。））等 手術・処置等2 なし	55	15.18	10.59	0.00%	62.73	
060335xx02000x	胆嚢水腫、胆嚢炎等 腹腔鏡下胆嚢摘出術等 手術・処置等1 なし 手術・処置等2 なし 定義副傷病 なし	53	6.30	7.30	0.00%	62.09	

外科で最も多い症例はヘルニアに対する治療で、件数は116件です。身体に負担の少ない腹腔鏡下での治療も多く行っています。転院率は0%であり、全国平均在院日数より短い日数で退院しています。2番目に多い症例は肺がんの手術治療で、件数は58件です。平均在院日数がやや長めですが、ご高齢の患者さんが比較的多いことが理由です。

3番目に多い症例は、下肢静脈瘤に対する治療です。当院ではレーザーやラジオ波による血管内焼灼術や、硬化療法を用いた低侵襲な治療を行っています。手術は1泊2日で行うため、平均在院日数が短くなっています。

乳癌に対する切除術も3番目に多い症例となっています。単純切除術だけでなく、温存手術や再建術なども行っています。症例数は、55件で年々件数が増加しています。

5番目に多い症例は、胆嚢炎や胆嚢結石に対する治療で、件数は53件です。ほぼ全例で腹腔鏡下で摘出術を行っています。転院率は0%であり、特に重篤な合併症もなく、一週間ほどで退院となっています。

血管外科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数		転院率	平均年齢	患者用パス
			自院	全国			
050180xx02xxxx	静脈・リンパ管疾患 下肢静脈瘤手術等	55	2.00	2.85	0.00%	71.96	
050180xx99xx0x	静脈・リンパ管疾患 手術なし 副傷病なし	-	-	13.73	-	-	
050170xx02000x	閉塞性動脈疾患 動脈形成術、吻合術等 処置1なし 処置2なし 副傷病なし	-	-	16.52	-	-	

血管外科で最も多い症例は、下肢静脈瘤に対する手術治療です。当院では、血管内焼灼術や硬化療法を用いた低侵襲な下肢静脈瘤治療を行っています。手術は1泊2日の入院で行うため、短期間での治療が可能となります。硬化療法は外来通院で施行しています。

当院は血管・脈管リンパ管の治療を行う専門医がおり、静脈瘤、静脈血栓、リンパ浮腫、末梢動脈疾患、腎不全に対する内シャント手術など多くの患者さんの治療を行っています。

呼吸器外科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数		転院率	平均年齢	患者用パス
			自院	全国			
040040xx97x0xx	肺の悪性腫瘍 その他の手術 処置2なし	58	12.69	11.87	0.00%	69.52	
040200xx01x00x	気胸 肺切除術等 処置2なし 副傷病なし	21	11.81	10.08	0.00%	38.10	
040010xx01x0xx	縦隔悪性腫瘍、縦隔・胸膜の悪性腫瘍 縦隔悪性腫瘍手術等 処置2なし	-	-	10.36	-	-	
040030xx01xxxx	呼吸器系の良性腫瘍 肺切除術 気管支形成を伴う肺切除等	-	-	9.29	-	-	
040020xx97xxxx	縦隔の良性腫瘍 その他の手術	-	-	8.66	-	-	

当院の呼吸器外科の入院患者様を疾患別に見てみると、原発性肺癌や他臓器癌の肺転移などの悪性腫瘍の手術目的の患者様が最も多くなっています。地域の医療機関や院内他科から、手術の目的で紹介・依頼されるケースが大半です。通常のお客様の在院日数は10日程度となっています。早期退院のご要望があればさらに短期での退院が可能です。

これに次いで、気胸の手術患者様が多くなっています。当院では、良性疾患である気胸に対しては手術以外の低負担の治療を最優先に実施しており、手術の適応判断は厳格に実施しています。そのため、平均在院日数が長めになっていますが、早期手術を御希望のお客様は早く対応しています。

当院には間質性肺炎を専門としている呼吸器内科医がいるため、その診断目的での手術も実施しています。また、近年は悪性リンパ腫の一病型の患者様の手術も増えてきました。

このように、当院の呼吸器外科では肺の悪性疾患、良性疾患、気胸、縦隔腫瘍、胸壁腫瘍、胸膜疾患、間質性肺疾患など、胸部の疾患に幅広く対応しています。

消化器外科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数		転院率	平均年齢	患者用パス
			自院	全国			
060160x001xxxx	鼠径ヘルニア 15歳以上 ヘルニア手術 鼠径ヘルニア等	116	4.41	4.96	0.00%	66.17	
060335xx02000x	胆嚢水腫、胆嚢炎等 腹腔鏡下胆嚢摘出術等 処置1なし 処置2なし 副傷病なし	52	5.71	7.30	0.00%	61.96	
060035xx01000x	結腸の悪性腫瘍 結腸切除術等 処置1なし 処置2なし 副傷病なし	35	15.00	15.30	0.00%	74.09	
060150xx99xx0x	虫垂炎 手術なし 副傷病なし	34	6.15	6.78	0.00%	32.94	
060020xx02x00x	胃の悪性腫瘍 胃切除術 悪性腫瘍手術等 処置2なし 副傷病なし	24	16.25	16.49	0.00%	72.04	

消化器外科で最も多い症例は、鼠径ヘルニアに対する手術で、症例数は116件です。

2番目に多い症例は、胆嚢炎や胆嚢結石に対する治療です。転院率は0%であり、特に重篤な合併症もなく、一週間以内に退院となっています。

3番目に多い症例は、大腸がんに対して切除術を行う症例です。症例数は35件となっています。

4番目に多いのは虫垂炎の症例で手術を行っていないものです。虫垂炎は初発で軽症のものであれば、抗生剤の点滴により保存的に治療を行っています。その後手術を行うかは、患者さんの希望を含めて判断しています。

5番目に多い症例は、胃がんに対して切除術を行う症例で、件数は24件です。

消化器外科では、現在腹腔鏡による手術を多く行っており、開腹手術に比べて傷痕も小さく、見た目が良いだけでなく術後の疼痛も少ないという特徴があります。

乳腺外科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数		転院率	平均年齢	患者用パス
			自院	全国			
090010xx01x0xx	乳房の悪性腫瘍 乳腺悪性腫瘍手術等 処置2なし	52	14.85	10.59	0.00%	62.96	
090010xx02x0xx	乳房の悪性腫瘍 乳腺悪性腫瘍手術 乳房部分切除術(腋窩部郭清を伴わないもの) 処置2なし	30	5.67	6.23	5.56%	64.13	
090010xx99x01x	乳房の悪性腫瘍 手術なし 処置2なし 副傷病:脳腫瘍等	-	-	13.15	-	-	
090020xx97xxxx	乳房の良性腫瘍 その他の手術	-	-	4.02	-	-	
090010xx99x00x	乳房の悪性腫瘍 手術なし 処置2なし 副傷病なし	-	-	8.37	-	-	

立川病院乳腺外科ではガイドラインに沿った乳房手術を心掛けています。

立川病院の乳がん患者さんの平均年齢は全国平均よりやや高めなので、温存手術を望まない患者さんも多く、温存手術の割合がやや低い傾向にあります。基本的に乳房全摘もしくは部分切除とセンチネルリンパ節生検を組み合わせ、出来るだけ患者さんに侵襲の少ない手術を目指しています。

乳房温存手術が希望でも、乳がんの進行具合によっては温存手術ができない場合があります。その場合は、手術前に抗がん剤治療をして、原発巣を縮小させてからの手術も提案しています。

整形外科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数		転院率	平均年齢	患者用パス
			自院	全国			
070010xx010x0x	骨軟部の良性腫瘍（脊椎脊髄を除く。） 四肢・躯幹軟部腫瘍摘出術等 手術・処置等 1 なし 定義副傷病 なし	90	3.00	5.59	1.11%	52.57	
160800xx01xxxx	股関節・大腿近位の骨折 人工骨頭挿入術 肩、股等	83	33.20	26.30	49.40%	82.41	
070085xx97xxxx	滑膜炎、腱鞘炎、軟骨などの炎症（上肢以外） 手術あり	53	14.28	13.48	0.00%	51.98	
070210xx01xxxx	下肢の変形 骨切り術 前腕、下腿等	48	11.00	22.30	0.00%	65.73	
070343xx99x20x	脊柱管狭窄（脊椎症を含む。） 腰部骨盤、不安定椎 手術なし 手術・処置等 2 あり 定義副傷病 なし	38	3.63	6.59	0.00%	72.16	

整形外科の症例で最も多いのは上腕や大腿、背部など皮膚皮下の軟部腫瘍の手術です。症例数は90件で当院整形外科では最も多い症例となっています。全患者の平均在院日数は3日となっています。

2番目に多い症例は、大腿骨近位端（股関節）の骨折手術であり、症例数は83件です。全患者の平均在院日数は33.2日となっていますが、重症度や術後の経過等で入院日数は異なります。医師による手術のほか、理学療法士によるリハビリ治療を行い、患者さんをサポートしています。

3番目に多い症例は変形性足関節症や後脛骨筋腱機能不全に対する手術で症例数は53件、平均在院日数は14.3日となっています。変形性足関節症の場合は主に人工関節置換術や関節固定術を行います。後脛骨筋腱機能不全の場合は自分の腱や筋膜、人工靭帯等を用いて靭帯の再建や形成を行います。

現在整形外科には8名の常勤医師がおり、軟部腫瘍や上腕、脊椎・脊髄疾患、股・膝関節や足部の疾患、ケガ・外傷、リウマチや癌の骨転移など、幅広い専門分野で多くの患者さんの治療を行っています。

形成外科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数		転院率	平均年齢	患者用パス
			自院	全国			
020230xx97x0xx	眼瞼下垂 手術あり 手術・処置等2 なし	17	2.06	3.15	0.00%	74.53	
090010xx04xxxx	乳房の悪性腫瘍 組織拡張器による再建手術（一連につき） 乳房（再建手術）の場合等	15	13.00	8.23	0.00%	53.73	
020320xx97xxxx	眼瞼、涙器、眼窩の疾患 手術あり	-	-	3.20	-	-	
070010xx010x0x	骨軟部の良性腫瘍（脊椎脊髄を除く。）四肢・躯幹軟部腫瘍摘出術等 手術・処置等1 なし 定義副傷病 なし	-	-	5.59	-	-	
160200xx0200xx	顔面損傷（口腔、咽頭損傷を含む。）鼻骨骨折整復固定術等 手術・処置等1 なし 手術・処置等2 なし	-	-	5.37	-	-	

形成外科で最も多い症例は眼瞼下垂の手術です。治療が標準化されており、全国より短い在院日数で退院することが可能です。

2番目に多いのが乳房の再建手術で年々件数を増やしております。

当院では形成外科専門医2名が在籍し、顔面外傷や他科悪性腫瘍切除後再建術など幅広い疾患に対応しており、整容的・機能的回復をサポートしております。

脳神経外科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数		転院率	平均年齢	患者用パス
			自院	全国			
160100xx97x00x	頭蓋・頭蓋内損傷 その他の手術あり 手術・処置等2 なし 定義副傷病 なし	10	17.50	9.69	10.00%	74.60	
010040x099000x	非外傷性頭蓋内血腫（非外傷性硬膜下血腫以外）（JCS10未満）手術なし 手術・処置等1 なし 手術・処置等2 なし 定義副傷病 なし	-	-	18.72	-	-	
010010xx01x00x	脳腫瘍 頭蓋内腫瘍摘出術等 手術・処置等2 なし 定義副傷病 なし	-	-	21.16	-	-	
160100xx99x01x	頭蓋・頭蓋内損傷 手術なし 手術・処置等2 なし 定義副傷病 あり	-	-	21.73	-	-	
100260xx9700xx	下垂体機能亢進症 手術あり 手術・処置等1 なし 手術・処置等2 なし	-	-	17.16	-	-	

脳血管障害には、脳梗塞、脳出血、クモ膜下出血、という頻度で発症率が高くなりますが、重症度の順では、クモ膜下出血、脳出血、脳梗塞とおおざっぱに言えます。

クモ膜下出血の原因は脳動脈瘤の破裂がほとんどで、脳動脈瘤クリッピング術を行います。脳出血の量が少量の場合は手術を行いませんが、出血の量が多い場合には、神経内視鏡とナビゲーションシステムを使用して緊急手術で血腫を取り除きます。脳梗塞の緊急手術はめったにありませんが、頸動脈プラークからの血栓が塞栓源になる場合には、頸動脈内膜剥離術を緊急で行います。新病院開設にともない、救急部も活動を開始し、脳神経外科もそれに対応し、救急の処置や手術を行います。

産婦人科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数		転院率	平均年齢	患者用パス
			自院	全国			
120060xx02xxxx	子宮の良性腫瘍 腹腔鏡下腔式子宮全摘術等	87	6.62	6.16	0.00%	44.05	
120060xx01xxxx	子宮の良性腫瘍 子宮全摘術等	86	10.28	9.87	0.00%	45.44	
12002xxx99x40x	子宮頸・体部の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等2 4あり 定義副傷病 なし	86	4.74	4.85	0.00%	60.47	
120180xx01xxxx	胎児及び胎児付属物の異常 子宮全摘術等	84	9.39	9.70	0.00%	34.60	
120070xx02xxxx	卵巣の良性腫瘍 卵巣部分切除術（腔式を含む。） 腹腔鏡によるもの等	66	6.89	6.28	0.00%	43.42	

産婦人科では、主に子宮や子宮付属器の腫瘍に対する治療や、お産を行っています。産婦人科を総合して最も多い症例は、子宮筋腫の手術目的での入院です。良性の腫瘍では腹腔鏡手術も多く行っており、腹腔鏡下手術は患者さんの体への負担が少ないだけでなく、術後の傷が小さかったり早期の社会復帰が見込めます。

また、子宮頸・体部の悪性腫瘍に対する化学療法も多い症例に挙げられます。子宮や子宮付属器の良性・悪性腫瘍に対する治療は北多摩西部二次医療圏内で最も多く行っており、80%以上のシェアを占めております。

その他にも、骨盤位や既往帝王切開後の妊娠などの「胎児及び胎児付属物の異常」も多く、症例数は84件です。早産・切迫早産の症例では母体管理のための入院加療を行い、骨盤位の症例では帝王切開術を行っています。また、当院にはNICUも併設されており、小児科医と連携を取りながら診療を行っています。

保険診療にあたるDPCが対象のため上記リストにはありませんが、自費診療となる自然分娩も多く受け入れております。平均年齢は、表のように30代～60代と幅広い年齢の患者さんを受け入れており、地域の産婦人科における中核病院としての役割を担っています。

産科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数		転院率	平均年齢	患者用パス
			自院	全国			
120180xx01xxxx	胎児及び胎児付属物の異常 子宮全摘術等	84	9.39	9.70	0.00%	34.60	
120200xx99xxxx	妊娠中の糖尿病 手術なし	65	5.60	5.75	0.00%	33.94	
120260xx01xxxx	分娩の異常 子宮破裂手術等	50	9.70	9.63	0.00%	33.80	
120170xx99x0xx	早産、切迫早産 手術なし 処置2なし	47	29.43	19.69	12.77%	32.81	
120140xxxxxxxx	流産	33	1.91	2.45	0.00%	33.15	

当院では東京都地域周産期母子医療センターのお産の患者さんを多く受け入れています。保険診療に関しては以下のような傾向があります。

最も多い症例は既往帝王切開などの患者さんに対する手術です。症例数は平成29年度に比べて16件増加し、84件となっています。また、平均在院日数は9.4日です。帝王切開を予定で行う場合と緊急で行う場合があります。

2番目は妊娠糖尿病に対する管理入院です。血糖自己測定と栄養指導を行い、内科と協力しながら積極的に診療を行い、妊婦さんと胎児の状況に合わせた適切な治療を図っています。

3番目は分娩停止や胎児機能不全による緊急帝王切開です。症例数は50件となっています。

4番目は切迫早産です。他院から搬送される患者さんも多く受け入れています。また、当院には新生児集中治療室が併設されており、小児科医と連携を取りながら診療にあたっています。

5番目は流産した患者さんに対する治療です。子宮口から手術器具を挿入し子宮内の流産組織を掻き出す手術を行います。

上記のリストは保険診療にあたるDPCの順位であるため、リストにはありませんが、自費診療となる自然分娩も多く受け入れています。

このように、当院は多くの母体搬送を受け入れながら、より高度な医療が必要な患者さんに対して、高次医療機関と連携し対応することで、北多摩西部二次医療圏内における周産期医療の中で最も多くのシェアを占めており、地域の中核病院としての役割を担っています。

婦人科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数		転院率	平均年齢	患者用パス
			自院	全国			
120060xx02xxxx	子宮の良性腫瘍 腹腔鏡下腔式子宮全摘術等	87	6.62	6.16	0.00%	44.05	
120060xx01xxxx	子宮の良性腫瘍 子宮全摘術等	86	10.28	9.87	0.00%	45.44	
12002xxx99x40x	子宮頸・体部の悪性腫瘍 手術なし 処置2:化学療法ありかつ放射線療法なし(4) 副傷病なし	86	4.74	4.85	0.00%	60.47	
120070xx02xxxx	卵巣の良性腫瘍 卵巣部分切除術(腔式を含む) 腹腔鏡によるもの等	66	6.89	6.28	0.00%	43.42	
12002xxx02x0xx	子宮頸・体部の悪性腫瘍 子宮頸部(腔部)切除術等 処置2なし	62	3.02	3.20	0.00%	41.45	

婦人科で最も多い症例は、子宮の良性腫瘍に対する子宮全摘術等となります。腹腔鏡下で手術を行う症例数が87件、開腹で手術を行う症例が86件となっています。

次いで多い症例は、子宮頸・体部の悪性腫瘍に対する化学療法です。

良性腫瘍に対し腹腔鏡手術も多く行っており、子宮良性腫瘍では約40%、付属器の良性腫瘍では60%以上を腹腔鏡で行っています。

当院では外来化学療法室が利用でき、上記の表には含まれない卵巣がん（付属器悪性腫瘍）の化学療法が多い状況となっています。当院婦人科は、子宮の良性・悪性腫瘍、子宮付属器の良性・悪性腫瘍に対する治療を多く行っており、地域の中核病院としての役割を担っています。

眼科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数		転院率	平均年齢	患者用パス
			自院	全国			
020110xx97xxx0	白内障、水晶体の疾患 手術あり 片眼	225	4.43	2.84	0.00%	73.99	
020110xx97xxx1	白内障、水晶体の疾患 手術あり 両眼	149	10.54	5.39	0.00%	76.68	
020160xx97xxx0	網膜剥離 手術あり 片眼	37	8.32	9.75	0.00%	60.46	
020180xx97x0x0	糖尿病性増殖性網膜症 手術あり 手術・処置等2 なし 片眼	15	8.93	7.52	0.00%	56.93	
020200xx9710xx	黄斑、後極変性 手術あり 手術・処置等1 あり 手術・処置等2 なし	13	8.31	7.05	0.00%	65.92	

眼科は、ほとんどが手術のための入院となります。

最も多い症例は、白内障に対する治療です。片眼のみに対して手術を行う症例数が225件で平均在院日数は4.4日、両眼に対して手術を施行する症例数が149件で平均在院日数は10.5日となっています。主な手術として、水晶体再建手術を行います。年齢別では30代～90代となっており、片眼のみの症例は平均して74歳、両眼の症例は平均して76.7歳となります。

次いで多いのは網膜剥離に対する治療です。症例数は37件、平均在院日数は8.3日となっています。主な手術として、眼外からの網膜復位術や硝子体手術を行います。

次いで多いのは糖尿病性網膜症に対する治療です。症例数は15件、平均在院日数は9日となっています。

2019年4月から白内障手術入院の方針をいくつか変更しました。

一度の入院での両眼手術は原則として行いません。両眼手術の場合は片眼ずつ行い、2週間は空けます。

手術入院は透析をしている方を除いて手術前日に入院し、2泊3日もしくは3泊4日とします。

耳鼻咽喉科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数		転院率	平均年齢	患者用パス
			自院	全国			
030230xxxxxxxx	扁桃、アデノイドの慢性疾患	82	8.84	7.89	0.00%	24.18	
030240xx99xxxx	扁桃周囲膿瘍、急性扁桃炎、急性咽頭喉頭炎 手術なし	82	5.85	5.43	0.00%	37.55	
030350xxxxxxxx	慢性副鼻腔炎	52	6.73	7.04	0.00%	56.48	
030240xx01xxxx	扁桃周囲膿瘍、急性扁桃炎、急性咽頭喉頭炎 扁桃周囲膿瘍切開術等	48	9.27	7.27	0.00%	36.73	
030150xx97xxxx	耳・鼻・口腔・咽頭・大唾液腺の腫瘍 手術あり	38	7.45	7.37	0.00%	55.21	

耳鼻咽喉科の症例で最も多いのは、慢性扁桃炎に対する治療と急性扁桃炎や急性喉頭蓋炎に対する治療で、症例数はそれぞれ82件となります。慢性扁桃炎に対しては、口蓋扁桃摘出手術を行っています。また、急性扁桃炎・急性喉頭蓋炎に対しては抗生剤の投与が主な治療となります。

2番目に多い疾患は、慢性副鼻腔炎に対する治療で症例数は52件、平均在院日数は6.7日で、内視鏡を使用して鼻・副鼻腔手術を行っています。

3番目に多い疾患は、扁桃周囲膿瘍に対する治療です。膿瘍部分を局所麻酔下で切開し、排膿を行います。扁桃周囲膿瘍切開の手術を実施した件数は48件となります。

当院の耳鼻咽喉科では多様な疾患を扱っており、適応があれば手術治療も実施しています。

皮膚科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数		転院率	平均年齢	患者用パス
			自院	全国			
080020xxxxxxxx	带状疱疹	68	8.68	8.98	1.47%	63.40	
080010xxxx0xxx	膿皮症 手術・処置等 1 なし	66	10.80	12.51	1.52%	64.11	
080006xx01x0xx	皮膚の悪性腫瘍（黒色腫以外） 皮膚悪性腫瘍切除術等 手術・処置等 2 なし	30	5.20	8.16	0.00%	77.13	
080007xx010xxx	皮膚の良性新生物 皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部）等 手術・処置等 1 なし	23	2.35	4.05	0.00%	56.09	
180060xx97xxxx	その他の新生物 手術あり	14	2.64	6.33	0.00%	51.79	

皮膚科の疾患で最も多いのは、带状疱疹で症例数は68件です。带状疱疹の主な治療は、抗ウイルス剤の全身投与で、発症後できるだけ早期に開始することが重要です。頭部発症例や疼痛が強い場合、高齢者や合併症のある方など重症な場合は、入院の上1週間の抗ウイルス剤の点滴をお勧めしています。平均在院日数は8.68日となっています。

2番目に多いのは急性膿皮症で、下肢の蜂窩織炎が最も多くを占め、症例数は66件です。抗生剤の点滴が主たる治療で、平均在院日数は10.80日です。通常は1週間ほどの入院ですが、膿瘍や潰瘍を伴う場合は長期化することがあります。また当院では合併症を有する高齢者や、敗血症など重症の患者さんが多く、入院期間がやや長い傾向にあります。

3番目に多いのは、皮膚の悪性腫瘍（皮膚がん）の切除術です。症例数は30件、在院日数は麻酔方法、腫瘍の大きさ、再建術（皮弁形成や植皮）の有無により様々ですが、平均5.20日となっています。

4、5番目は概ね皮膚の良性腫瘍の切除術ですが、術前診断が困難な場合は、5番目のその他の新生物として分類されます。脂肪腫や粉瘤、色素性母斑などが含まれ、大型のもの、頭部や足底発症例など出血のリスクが高い場合、術後の安静を要する場合には短期入院手術を勧めています。

現在、皮膚科常勤医は4名で、三多摩地域で多くの紹介患者さんを受け入れており、外来・入院・手術を含めた診療に当たっています。

泌尿器科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数		転院率	平均年齢	患者用パス
			自院	全国			
110080xx991x0x	前立腺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等 1 あり 定義副傷病 なし	71	2.03	2.53	0.00%	67.31	
110070xx0200xx	膀胱腫瘍 膀胱悪性腫瘍手術 経尿道的手術 手術・処置等 1 なし 手術・処置等 2 なし	66	6.00	7.20	0.00%	74.15	
11012xxx020x0x	上部尿路疾患 経尿道的尿路結石除去術 手術・処置等 1 なし 定義副傷病 なし	35	4.69	5.62	0.00%	59.06	
11012xxx040x0x	上部尿路疾患 体外衝撃波腎・尿管結石破砕術（一連につき） 手術・処置等 1 なし 定義副傷病 なし	26	1.04	2.72	0.00%	47.19	
110420xx02xx0x	水腎症等 経尿道的尿管ステント留置術等 定義副傷病 なし	11	5.00	4.29	0.00%	57.18	

泌尿器科で最も多い症例は、前立腺がん疑いに対する生検で、症例数は71件、平均在院日数は2.0日となっています。

2番目に多い症例は膀胱がんに対する手術で、件数は66件です。平成29度は54件だったため、10件以上増加しています。また、平均在院日数は6.0日となっています。

3番目に多い症例は、尿管結石に対する手術です。症例数は35件であり、平均在院日数は4.7日となっています。尿路結石、膀胱がんに対する手術や、前立腺肥大に対する手術など、当院では尿道から内視鏡を入れて行う経尿道的手術を多く行っています。

近隣地域シェアについても大きな割合を占めており、多くの患者さんの治療を行っております。泌尿器科の医師は現在4名おり、膀胱や腎・尿路腫瘍、前立腺疾患や尿管結石など幅広い疾患に対応した治療を行っています。

3) 初発の5大がんのUICC病期分類別並びに再発患者数

初・再 部位	初発の病期分類					再発	病気分類基準	版数
	I	II	III	IV	不明			
胃がん	24	-	-	20	-	38	1	8,7
大腸がん	30	26	19	21	-	45	1	8,7
乳がん	-	38	-	-	34	29	1	8,7
肺がん	41	20	25	62	-	157	1	8,7
肝がん	-	-	-	-	-	40	1	8,7

※1：UICC TNM分類， 2：癌取り扱い規約

当院では、5大がんと言われる胃がん、大腸がん、乳がん、肺がん、肝臓がんに対し、それぞれ専門の医師が治療に当たります。また、各診療科が連携して治療にあたり、転移や合併症にも対応できる環境が整っております。

■胃がん

胃がんはステージごとの割合ではⅠ期の割合が高くなっています。早期がんでは内視鏡手術や腹腔鏡手術といった患者さんに負担の少ない治療を行っております。またⅢ期、Ⅳ期の症例にも対応しており、患者さんと十分に治療法の選択についてお話をしたうえで、手術や化学療法などの治療を行っております。

■大腸がん

大腸がんは、早期がんから進行がんまで幅広く対応しています。治療は腹腔鏡手術を積極的に取り入れております。腹腔鏡手術の適応とならないような局所進行がんには開腹手術を行います。ステージに応じて補助化学療法、全身化学療法を行います。

■乳がん

乳がんは、積極的な検診や健診が普及していることもあり、早期がん（0期＋Ⅰ期）の割合が増えています。治療は手術や化学療法など幅広く対応しています。

■肺がん

呼吸器内科、呼吸器外科、放射線診療・治療科の緊密な連携のもとに、早期から進行がんまで幅広く対応しています。

原則として、0～ⅡおよびⅢ期の一部は手術療法、それ以外の場合は薬物療法と放射線治療が主体となりますが、患者様の年齢や身体状況、ご希望に応じて臨機応変に対応します。肺がんは再発しやすいため再発患者様も多くなっていますが、近年の肺がん治療の進歩は目覚ましく、適切な治療を適用することで良好な生活を維持しながら治療を続けている患者さんも数多くいらっしゃいます。

■肝臓がん

肝臓がんは早期がんから進行がんまで幅広く診療に対応しています。消化器内科、消化器外科、放射線科が連携し、手術、ラジオ波焼灼治療、カテーテル化学塞栓療法、放射線治療、分子標的治療など、がんの進行度に応じて、個々の患者さんに最適な治療を行っております。併存していることが多い肝疾患の治療を受ける環境も整っています。

4) 成人市中肺炎の重症度別患者数等

	患者数	平均在院日数	平均年齢
軽症	22	14.73	51.32
中等症	108	18.31	76.53
重症	55	19.22	84.20
超重症	17	27.94	83.29
不明	-	-	-

症例数では中等症が最も多く、全体の5割以上を占めています。

軽症例の平均在院日数が最も短く、平均年齢も低くなっています。軽症では20代の若い患者さんもあり、比較的短い入院期間で退院しています。

最も平均在院日数が長いのは超重症例ですが、年齢や合併症等により入院期間にばらつきがあります。

5) 脳梗塞のICD10別患者数等

発症日から	患者数	平均在院日数	平均年齢	転院率
3日以内	77	26.86	75.70	15.15%
その他	22	32.73	76.59	9.09%

当院では脳梗塞は基本的に神経内科に入院となります。そのほとんどが発症から3日以内に来院されており、全体の約8割となっています。

急性期脳梗塞の患者さんの平均年齢は約75.7歳であり、後期高齢者の方がほとんどです。リハビリテーションを含めた治療を行います。また、継続してリハビリテーションを行うためにリハビリテーションを専門とする病院へ転院することもあります。

発症から時間が経ってから来院される患者さんの場合、早期の治療が行えないため、発症から3日以内に来院した患者さんに比べ治療に時間がかかることから平均在院日数は長くなります。

内科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K7211	内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術（長径2cm未満）	107	2.16	4.12	0.00%	70.57	
K5493	経皮的冠動脈ステント留置術（その他）	43	3.63	3.49	0.00%	68.33	
K610-3	内シャント設置術	27	5.15	11.22	0.00%	65.81	
K5492	経皮的冠動脈ステント留置術（不安定狭心症）	18	0.28	10.33	0.00%	71.28	
K654	内視鏡的消化管止血術	15	11.80	31.67	6.67%	73.60	

内科の手術で最も多い症例は、内視鏡的結腸ポリープ・粘膜切除で、件数は107件です。大腸にできたポリープを内視鏡を用いて切除するもので、先端部から出したワイヤーでポリープの根元部分を引っ掛け、ワイヤーで締め電気で焼き切る手術です。患者さんの合併症の有無などで入院期間は多少前後しますが、一般的な症例の場合多くは4～5日で退院となります。

2番目に多い手術は経皮的冠動脈ステント留置術です。主に狭心症などの疾患に対して行われます。心臓カテーテルを用いて治療するもので、血管形成後や血管拡張後の再閉塞や再狭窄予防目的にステントと呼ばれる金属の筒を血管内に留置するものです。予定入院の場合、平均的な入院期間は4日間となります。カテーテル検査実施時に手術を行うケースも多いです。

3番目に多い手術は内シャント造設術です。末期腎不全の患者さんが血液透析導入のためにシャントを造設する手術で、件数は27件です。

その他にも胆管の内視鏡手術や胃瘻造設など幅広い疾患に対応しており、地域の中核病院としての役割を担っています。

循環器内科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K5493	経皮的冠動脈ステント留置術（その他）	43	3.63	3.49	0.00%	68.33	
K5492	経皮的冠動脈ステント留置術（不安定狭心症）	18	0.28	10.33	0.00%	71.28	
K616	四肢の血管拡張術・血栓除去術	-	-	-	-	-	
K5491	経皮的冠動脈ステント留置術（急性心筋梗塞）	-	-	-	-	-	
K5972	ペースメーカー移植術（経静脈電極）	-	-	-	-	-	

循環器内科で最も多い手術症例は、冠動脈へのステント留置術です。主に狭心症などの疾患に対して行われます。心臓カテーテルを用いて治療するもので、血管形成後や血管拡張後の再閉塞や再狭窄予防目的にステントと呼ばれる金属の筒を血管内に留置するものです。予定入院の場合、平均的な入院期間は4日間となります。その他にも、四肢の血管拡張術・血栓除去術、ペースメーカー移植術（経静脈電極）等を行っています。

循環器内科で行われる手術は、局所麻酔で挿入部を小さく穿刺するため、患者さんの体への負担も少ないというメリットがあります。また入院から退院までの流れが標準化されていることから、安心して入院できる環境にあります。

消化器内科

Kコード	名称	患者数	平均 術前日数	平均 術後日数	転院率	平均 年齢	患者用 パス
K7211	内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術（長径2cm未満）	101	1.82	3.93	0.00%	70.10	
K7212	内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術（長径2cm以上）	13	1.23	4.14	0.00%	71.77	
K6152	血管塞栓術（頭部、胸腔、腹腔内血管等）（選択的動脈化学塞栓術）	13	5.92	25.08	7.69%	76.15	
K6532	内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術（早期悪性腫瘍粘膜下層）	-	-	-	-	-	
K6871	内視鏡的乳頭切開術（乳頭括約筋切開のみ）	-	-	-	-	-	
K654	内視鏡的消化管止血術	-	-	-	-	-	

消化器内科の手術で最も多い症例は、内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術で、件数は101件です。大腸にできたポリープを内視鏡を用いて切除するもので、先端部から出したワイヤーでポリープの根元部分を引っ掛け、ワイヤーで締め電気で焼き切る手術です。患者さんの合併症の有無などで入院期間は多少前後しますが、一般的な症例の場合多くは4～5日で退院となります。

2番目に多い手術は血管塞栓術（頭部、胸腔、腹腔内血管等）（選択的動脈化学塞栓術）です。これは肝臓がんの患者さんに行う治療で、カテーテルを利用して肝臓に直接抗がん剤を注入するとともに、腫瘍を経過している動脈を塞栓する治療です。

それ以外にも早期胃がんや総胆管結石などを中心とした内視鏡手術も幅広く実施しております。

入院から治療・看護・退院までの診療計画がまとめられているため、安全で質が高く、かつ短期間での治療が可能となっております。

小児科

Kコード	名称	患者数	平均 術前日数	平均 術後日数	転院率	平均 年齢	患者用 パス
K9131	新生児仮死蘇生術（仮死第1度）	46	0.00	12.35	6.52%	0.00	
K9132	新生児仮死蘇生術（仮死第2度）	17	0.00	16.47	0.00%	0.00	
K7151	腸重積症整復術（非観血的）	-	-	-	-	-	

小児科で行われる新生児仮死蘇生術は、早産や低体重で出生した児に対して、救命、また神経障害を最小限にとどめるために、気道吸引や人工呼吸器による酸素投与などを行い、蘇生措置を施す手技のことで、当院産婦人科では比較的高いリスクの患者さんも受け入れており、小児科のNICU（新生児集中治療室）では早産児、低出生体重児や一過性多呼吸などの新生児に対して産婦人科と連携を取りながら迅速な処置・対応を行っています。

外科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K634	腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術（両側）	81	0.98	2.37	0.00%	65.17	
K672-2	腹腔鏡下胆嚢摘出術	72	1.86	4.03	0.00%	61.79	
K617-4	下肢静脈瘤血管内焼灼術	49	0.00	1.00	0.00%	71.55	
K719-3	腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	44	3.80	11.32	0.00%	74.93	
K514-23	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（肺葉切除又は1肺葉を超える）等	43	1.88	9.60	0.00%	70.00	

外科で最も多い手術は、腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術です。合併症のある患者さんは入院日数が長くなることもありますが、基本的には2泊3日の入院の患者さんが多く、比較的短期間での退院が可能となっています。当院では現在、腹腔鏡下手術を積極的に行っており、術後の早期社会復帰も考慮した治療を行っております。

2番目に多い手術は、腹腔鏡下胆嚢摘出術です。胆嚢結石症等に対して行われる手術で、当院では腹腔鏡下手術を積極的に行っています。腹腔鏡下胆嚢摘出術は、お腹に小さな穴を複数ヶ所開け、そこから鉗子を挿入して胆嚢を摘出します。開腹手術に比べて傷痕も小さく、見た目が良いだけでなく術後の疼痛も少ないという特徴があります。また2016年度からはお臍の傷一つで手術を行う、単孔式腹腔鏡下胆嚢摘出術もおこなっており、術後の回復も早く、患者さんの負担も少なくなっています。入院期間は1週間程度と、診療内容が標準化されており、安全で質の高い医療を提供しております。

3番目に多い症例は、下肢静脈瘤に対する治療です。当院ではレーザーやラジオ波による血管内焼灼術や、硬化療法を用いた低侵襲な治療を行っております。手術は1泊2日で行うため、平均在院日数が短くなっています。

4番目に多い手術は、腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術です。大腸がんに対する手術であり、こちらも腹腔鏡下での手術となっています。

5番目に多い手術は、胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（肺葉切除又は1肺葉を超える）です。平成9年より胸腔鏡を利用した身体的負担を軽減した手術を導入しており、安定した成績をあげています。診療内容は安心・安全・確実な医療を重視して院内標準化されています。

血管外科

Kコード	名称	患者数	平均 術前日数	平均 術後日数	転院率	平均 年齢	患者用 パス
K617-4	下肢静脈瘤血管内焼灼術	49	0.00	1.00	0.00%	71.55	
K6171	下肢静脈瘤手術（抜去切除術）	-	-	-	-	-	
K6147	血管移植術、バイパス移植術（その他の動脈）	-	-	-	-	-	
K6173	下肢静脈瘤手術（高位結紮術）	-	-	-	-	-	
K6146	動脈間バイパス造成術（自家血管使用）	-	-	-	-	-	

血管外科で多い手術は、下肢静脈瘤に対する手術です。最も多い手術は、下肢静脈瘤血管内焼灼術です。静脈内にファイバーを挿入し、静脈を焼灼します。

2番目に多い手術は、下肢静脈瘤に対し、特殊なワイヤーを用いて抜去したり、切除したりする手術です。

症例により、手術の適応は異なりますが、いずれの手術も短期間で行うことができます。

当院では、血管・リンパ管の治療を行う脈管専門医が担当します。

呼吸器外科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K514-23	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（肺葉切除又は1肺葉を超える）	41	1.93	9.68	0.00%	70.56	
K5131	胸腔鏡下肺切除術（肺嚢胞手術（楔状部分切除））	25	5.12	6.40	0.00%	39.20	
K514-21	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（部分切除）	11	2.64	9.91	0.00%	69.18	
K514-22	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（区域切除）	-	-	-	-	-	
K5132	胸腔鏡下肺切除術（その他）	-	-	-	-	-	

当院における呼吸器外科の入院患者様の内訳は、原発性肺癌の患者様が最も多くを占めています。そのため、手術種類別に見てみると、肺癌での標準とされている葉切除手術が最も多くなっています。葉切除も胸腔鏡を使って身体的負担を軽減する手術を行っています。胸腔鏡手術は導入後20年以上経過しており、1000例以上の実績を有しています。

早期がんや小さな転移性肺腫瘍、あるいは高齢などの理由で切除範囲を小さくする必要のある患者様には胸腔鏡下に肺の狭い範囲を切除する部分切除や区域切除を行っています。

気胸に対しては胸腔鏡下に肺嚢胞手術（楔状部分切除）が標準です。

その他、診断目的の手術（試験切除）や縦隔腫瘍に対する手術の患者様が一定数いらっしゃいます。

多くはありませんが、進行癌や隣接臓器へ病気が広がっている患者様については、他臓器合併切除のような拡大手術にも対応して実施しています。

診療内容は安全・確実な医療を重視しており、標準化されたクリニカルパスに従って実施しています。

消化器外科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K634	腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術（両側）	81	0.98	2.37	0.00%	64.87	
K672-2	腹腔鏡下胆嚢摘出術	71	1.49	3.97	0.00%	61.69	
K719-3	腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	41	2.68	10.56	0.00%	74.44	
K6335	鼠径ヘルニア手術	36	1.22	2.50	0.00%	67.97	
K718-21	腹腔鏡下虫垂切除術（虫垂周囲膿瘍を伴わないもの）	20	0.75	3.80	0.00%	34.40	

外科で最も多い手術は腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術で、件数は81件です。合併症のある患者さんは入院日数が長くなることもありますが、基本的には4日間入院の患者さんが多く、比較的短期間での退院が可能となっています。当院では現在、腹腔鏡手術を積極的に行っており、術後の早期社会復帰も考慮した治療を行っております。

2番目に多い手術は、腹腔鏡下胆嚢摘出術です。胆嚢結石症等に対して行われる手術で、腹腔鏡手術を積極的に行っています。

3番目は大腸がんに対する腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術です。腹腔鏡手術は、お腹に小さな穴を複数ヶ所開け、そこから鉗子を挿入し病変を摘出します。開腹手術に比べて傷痕も小さく、見た目が良いだけでなく術後の疼痛も少ないという特徴があります。

4番目に多い手術は鼠径ヘルニア手術です。鼠径ヘルニアの患者さんの多くは、腹腔鏡による手術を行っていますが、症例に応じて、前方アプローチも行っています。

5番目に多い手術は、腹腔鏡下虫垂切除術です。虫垂炎に対して行われる手術で、腹腔鏡下で炎症に陥った虫垂を切除します。

乳腺外科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K4763	乳腺悪性腫瘍手術（乳房切除術（腋窩部郭清を伴わない））	33	1.94	9.94	0.00%	60.24	
K4762	乳腺悪性腫瘍手術（乳房部分切除術（腋窩部郭清を伴わない））	30	1.40	3.27	0.00%	64.13	
K4765	乳腺悪性腫瘍手術（乳房切除術・胸筋切除を併施しない）	18	1.11	16.39	0.00%	69.28	
K4742	乳腺腫瘍摘出術（長径5cm以上）	-	-	-	-	-	
K4741	乳腺腫瘍摘出術（長径5cm未満）	-	-	-	-	-	

立川病院乳腺外科ではガイドラインに沿った乳房手術を心掛けています。

基本的に乳房全摘もしくは部分切除とセンチネルリンパ節生検を組み合わせ、出来るだけ患者さんに侵襲の少ない手術を目指しています。

乳房温存手術が希望でも、乳がんの進行具合によっては温存手術ができない場合があります。その場合は、手術前に抗がん剤治療をして原発巣を縮小させてからの手術も提案しています。

整形外科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K0461	骨折観血的手術（大腿）等	70	4.40	22.53	38.57%	73.46	
K0821	人工関節置換術（膝）等	69	1.93	22.49	10.14%	72.22	
K0301	四肢・躯幹軟部腫瘍摘出術（躯幹）等	49	0.76	2.73	2.04%	59.29	
K0462	骨折観血的手術（前腕）等	48	2.44	5.46	4.17%	60.21	
K0463	骨折観血的手術（鎖骨）等	40	1.40	4.45	2.50%	46.90	

整形外科で最も多い手術は大腿に対しての骨折観血的手術です。症例数は70件、平均入院日数は27日となっていますが、骨折の重症度や経過、患者さんの合併症の有無などで入院日数は異なります。骨折の手術では最も一般的な術式で、患部を開きスクリューやプレートなどで固定し骨折部を安定して保持することを目的に行われるものです。手術の多くは大腿骨頸部（大腿骨と股関節をつなぐ部分）の骨折に対して行われているものです。

2番目に多い手術は、人工関節置換術で、症例数は69件となっています。平均の入院日数は24日となっていますが、患者さんの状態等により入院期間は異なります。主に変形性股関節症に対して行われる手術です。

3番目に多い術式は軟部腫瘍摘出術で49件です。良性の腫瘍で皮下より深い所（軟部組織内）に位置する腫瘍の切除術です。状態によって日帰りで行われる手術でもあり、平均入院期間も3.5日と短くなっています。

4番目に多い手術は、前腕部等に対しての骨折観血的手術となっています。2位の大腿部同様にスクリュー・プレートを用いて治療を行います。

術後は理学療法士が中心となり、患者さんそれぞれの立場を考えたリハビリを行い、早期回復をサポートしています。

形成外科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K2191	眼瞼下垂症手術（眼瞼挙筋前転法）	17	0.00	1.06	0.00%	74.53	
K476-4	ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）	13	3.23	8.31	0.00%	53.69	
K0301	四肢・躯幹軟部腫瘍摘出術（肩）等	-	-	-	-	-	
K2172	眼瞼内反症手術（皮膚切開法）	-	-	-	-	-	
K427	頬骨骨折観血的整復術	-	-	-	-	-	

形成外科で行っている最も多い手術は、眼瞼下垂の手術です。

2番目に多い手術は、乳がん術後の患者さんなどを対象とした乳房再建術です。年々件数を伸ばしており、当院では形成専門外科医が2名在籍しています。

その他にも、顔面外傷、眼瞼下垂以外の眼瞼手術、他科悪性腫瘍切除術後の再建など幅広い疾患に対応しており、整容的・機能的回復をサポートしております。

脳神経外科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K164-2	慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術 等	13	1.46	21.38	7.69%	75.15	
K1692	頭蓋内腫瘍摘出術（その他）	-	-	-	-	-	
K171-21	内視鏡下経鼻的腫瘍摘出術（下垂体腫瘍）	-	-	-	-	-	
K145	穿頭脳室ドレナージ術	-	-	-	-	-	
K1742	水頭症手術（シャント手術）	-	-	-	-	-	

新病院での実際の診療が進んできて、脳神経外科では15年前に勤務した石川部長（元自治医大さいたま医療センター脳神経外科准教授）と新しい風を吹き込む篠田顧問（前聖路加国際病院脳神経外科部長）を中心にフル活動しています。脳神経外科では、下垂体腫瘍やそのほかの脳腫瘍、慢性硬膜下血腫、水頭症等の手術を行っております。

立川病院脳神経外科は、古くから、顔面けいれんの治療を行ってまいりました。現在もなお、検査、診断からボトックス治療、神経減圧術まで、行っております。手術は内視鏡での確認と筋電図モニターを加え、治癒率100%をめざします。術中脳神経機能の電気生理モニターは、脳腫瘍や脳血管障害をはじめとするほとんどの脳神経外科開頭手術で重要な手法です。さらに、内視鏡や超音波装置などの補助機器を用いて、術後の経過を良好にして、術後日数や平均滞在日数を減らします。

産婦人科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K8882	子宮附属器腫瘍摘出術（両側）（腹腔鏡）	105	0.98	4.83	0.00%	41.98	
K8982	帝王切開術（選択帝王切開）	104	9.30	7.57	0.00%	34.25	
K877	子宮全摘術	93	1.92	8.25	0.00%	51.05	
K8981	帝王切開術（緊急帝王切開）	88	3.82	8.02	0.00%	33.30	
K867	子宮頸部（腔部）切除術	64	1.00	1.02	0.00%	41.75	

産婦人科で最も多く行っている手術は、子宮附属器腫瘍摘出術（腹腔鏡）です。卵巣や卵管の良性腫瘍に対し、腹腔鏡下で腫瘍摘出を行う手術で、症例数は105件です。

2番目に多い症例は、帝王切開手術です。過去に帝王切開や子宮筋腫などの手術を行った患者さんや胎児が逆子の場合などの行われます。また、あらかじめ計画された帝王切開（選択的帝王切開術）は104件となります。

3番目に多い症例は、子宮全摘術です。そのほとんどが子宮筋腫に対する手術となります。手術は基本的に前日に入院し、術後は8日ほどで退院となります。子宮全摘術は開腹だけではなく、腹腔鏡による手術も行っています。

4番目に多い症例は予期できない理由で緊急に帝王切開術を行なった症例で件数は88件です。当院では患者さんが安心してお産ができるように、いつでも緊急帝王切開に対応できる体制を整えています。

産科

Kコード	名称	患者数	平均 術前日数	平均 術後日数	転院率	平均 年齢	患者用 パス
K8982	帝王切開術（選択帝王切開）	104	9.30	7.57	0.00%	34.25	
K8981	帝王切開術（緊急帝王切開）	88	3.82	8.02	0.00%	33.30	
K9091 [□]	流産手術（妊娠11週まで）（その他）	28	0.93	0.04	0.00%	33.11	
K909-2	子宮内容除去術（不全流産）	-	-	-	-	-	
K9092	流産手術（妊娠11週超21週まで）	-	-	-	-	-	

産科で行う手術で最も多いのは帝王切開です。過去に帝王切開や子宮筋腫手術などの子宮手術歴のある患者さんは、帝王切開の適応となります。予め予定を立てて行うものが選択帝王切開、予期せぬ理由で緊急に行うものが緊急帝王切開になります。切迫早産などで長期入院している患者さんが含まれているため、術前の平均日数が長くなっていますが、予定帝王切開の場合、基本的には前日の入院になります。3番目の流産手術は妊娠初期の流産に対するもので、原則1泊2日の入院で行っています。

婦人科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K8882	子宮附属器腫瘍摘出術（両側）（腹腔鏡）	105	0.98	4.83	0.00%	41.98	
K877	子宮全摘術	93	1.92	8.25	0.00%	51.05	
K867	子宮頸部（腔部）切除術	64	1.00	1.02	0.00%	41.75	
K879	子宮悪性腫瘍手術	55	2.38	11.89	0.00%	58.31	
K877-2	腹腔鏡下腔式子宮全摘術	51	1.29	4.92	0.00%	47.37	

婦人科で最も多い手術は子宮附属器腫瘍摘出術（腹腔鏡）です。卵巣や卵管の良性腫瘍に対し、腹腔鏡下で腫瘍摘出を行う手術です。

2番目に多い手術は、子宮全摘術です。ほとんどが子宮筋腫に対するものであり、開腹で行う症例が多い状況です。基本的には手術前日に入院し、術後一週間ほどで退院となります。

3番目に多い手術は、子宮頸部（腔部）切除術です。子宮頸部ないしは頸部を切除する手術で、子宮頸部異形成などの疾患が適応となります。

4番目に多い手術は、子宮悪性腫瘍手術です。広汎あるいは準広汎子宮全摘術を含むような侵襲の大きい手術ですが、エネルギーデバイスの使用や泌尿器科・消化器外科・血管外科のバックアップにより安全な体制で行っています。

5番目に多い手術は、腹腔鏡下腔式子宮全摘術です。腹腔鏡の導入で、開腹手術と比較してより短期間での退院が可能となっています。

眼科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K2821 ^ア	水晶体再建術（眼内レンズを挿入）（その他）	368	1.80	4.33	0.00%	75.15	
K2801	硝子体茎頭微鏡下離断術（網膜付着組織を含む）	54	2.41	5.44	0.00%	62.74	
K275	網膜復位術	11	1.55	3.27	0.00%	55.73	
K2683	緑内障手術（濾過手術）	11	1.73	3.91	0.00%	68.36	
K2821 ^イ	水晶体再建術（眼内レンズを挿入）（縫着レンズ挿入）	-	-	-	-	-	

当院では白内障に対する水晶体再建術を多く行っており、症例数(入院の人数)は368件です。入院期間は基本的に片眼で4.4日、両眼で10.5日(一時外泊あり)ほどであり病気の特性上、高齢の方が多くなっています。

2番目の硝子体茎頭微鏡下離断手術は、主に糖尿病性網膜症や、黄斑円孔などに対する手術です。

3番目の網膜復位術は主に網膜剥離に対して眼外から行う手術です。網膜剥離の好発年齢は若年層（10～20歳代）と中年層（40～60歳代）でピークがあるため、平均年齢は若干低くなっています。

2019年4月から白内障手術入院の方針をいくつか変更しました。

一度の入院での両眼手術は原則として行いません。両眼手術の場合は片眼ずつ行い、2週間は空けます。手術入院は透析をしている方を除いて手術前日に入院し、2泊3日もしくは3泊4日とします。

耳鼻咽喉科

Kコード	名称	患者数	平均 術前日数	平均 術後日数	転院率	平均 年齢	患者用 パス
K3772	口蓋扁桃手術（摘出）	66	1.33	6.62	0.00%	27.15	
K340-5	内視鏡下鼻・副鼻腔手術3型（選択的 （複数洞）副鼻腔手術）	51	1.43	4.55	0.00%	59.20	
K368	扁桃周囲膿瘍切開術	43	0.49	7.51	0.00%	36.09	
K309	鼓膜（排液、換気）チューブ挿入術	21	1.48	1.43	0.00%	5.86	
K347	鼻中隔矯正術	19	1.26	4.26	0.00%	41.53	

耳鼻科で最も多く行っている手術は口蓋扁桃摘出手術で症例数は66件となっています。扁桃炎を繰り返す習慣性扁桃炎に対して行う扁桃摘出手術です。

2番目に多い内視鏡下鼻・副鼻腔手術3型は、内視鏡を使用した慢性副鼻腔炎に対する手術です。手術を行う範囲によって1～4型まで分かれており、3型単独では51件となっています。3型の手術は中等度の副鼻腔炎に対するものであり、複数の副鼻腔を処理する必要があります。

3番目に多い術式は扁桃周囲膿瘍切開術です。扁桃周囲膿瘍は、扁桃周囲に膿瘍を形成した状態を指します。外来で局所麻酔下に切開を加え、排膿を行った後、入院加療を行っています。術前の日数が短いのは来院後すぐに処置を行い、そのまま入院となる事が多いためです。

4番目は良性の滲出性中耳炎に対する手術で症例数は21件です。

皮膚科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K0072	皮膚悪性腫瘍切除術（単純切除）	46	0.17	4.20	0.00%	75.91	
K0052	皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部）（長径2cm以上4cm未満）	10	0.00	1.30	0.00%	57.00	
K0051	皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部）（長径2cm未満）	10	0.00	1.40	0.00%	53.80	
K0062	皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部以外）（長径3cm以上6cm未満）	10	0.00	1.30	0.00%	56.40	
K0061	皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部以外）（長径3cm未満）	-	-	-	-	-	

最も多い皮膚悪性腫瘍切除術の対象は、基底細胞癌や有棘細胞癌、悪性黒色腫などが挙げられます。局所麻酔下に切除縫縮することが多いですが、大型のものでは全身麻酔下に植皮術や皮弁形成術と併せて行うこともあります。皮膚悪性腫瘍は高齢の方に多いため、平均年齢は75.91歳と高い傾向にあります。

皮膚、皮下腫瘍摘出術は良性腫瘍に対して行う手術であり、大きさや部位（露出部か否か）によってKコードが細分化されていますが、術式は同じものとなります。ほとんどは局所麻酔で対応が可能で、入院当日に手術を行い、1～2泊で退院、約1週間後に外来で抜糸となることが多いです。

なお表には示されていませんが、軟部悪性腫瘍の切除術や、糖尿病性壊疽、壊死性筋膜炎に対する切開、デブリードマン、植皮術も近年増加傾向にあります。

泌尿器科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K80364	膀胱悪性腫瘍手術（経尿道的手術）（電解質溶液利用）	66	1.24	3.88	0.00%	74.50	
K7811	経尿道的尿路結石除去術（レーザー）	35	2.11	4.17	2.86%	58.83	
K768	体外衝撃波腎・尿管結石破砕術	26	0.00	0.04	0.00%	47.19	
K783-2	経尿道的尿管ステント留置術	20	2.20	8.30	5.00%	62.45	
K773-2	腹腔鏡下腎（尿管）悪性腫瘍手術	-	-	-	-	-	

泌尿器科で最も多い手術は、膀胱悪性腫瘍に対する経尿道的手術で、件数は66件です。膀胱がんに対して行われる手術で、合併症の有無や病態によって異なりますが、平均で5～6日で退院される患者さんが多くなっています。膀胱にある癌を尿道から挿入した内視鏡で切除します。

2番目に多い手術は、経尿道的尿路結石除去術です。腎結石、尿管結石などに対する手術で、尿道から内視鏡を挿入し、レーザーを用いて結石を破砕し体外へ摘出します。

3番目に多い手術は、こちらも腎・尿管結石等に対する手術で、体外衝撃波腎・尿管結石破砕術です。これは、体の外から衝撃波をあてて、体に傷をつけることなく結石を粉々に砕き、尿管から膀胱に排出させ体外に出す手術です。

4番目に多い手術は、経尿道的尿管ステント留置術です。腫瘍による圧迫など、何らかの理由で尿管が細くなり、腎臓に尿が溜まってしまう場合に、経尿道的にステントと呼ばれる管を入れて、尿が排出できるようにします。

これら4つの手術はいずれも身体を大きく切らないので患者さんの負担が少なく確実性も高い治療法となっています。

7) その他（DIC、敗血症、その他の真菌症および手術・術後の合併症の発生率）

DPC	傷病名	入院契機	症例数	発生率
130100	播種性血管内凝固症候群	同一	-	-
		異なる	-	-
180010	敗血症	同一	28	0.31%
		異なる	24	0.27%
180035	その他の真菌感染症	同一	-	-
		異なる	-	-
180040	手術・処置等の合併症	同一	27	0.30%
		異なる	-	-

この指標は重症疾病である播種性血管内凝固（DIC）や敗血症等が、入院時から発生したのか、入院後に発生したのかを表したものです。

がん疾患を合併症に持つ患者さんや入院時から非常に重篤な状態の患者さんが高い発生率となっています。多くの重症患者産に対応している当院では、件数0件にすることは難しいですが、医療の質の向上に引き続き取り組みたいと考えております。

手術や処置の合併症は、透析シャントの閉塞や人工関節の脱臼、手術後の感染症などが該当します。術後、年月の経過と共に挿入物の合併症などが起こるケースがあります。当院では入院中に起こる合併症の数は少なく、ほとんどが入院時より合併症で入院される患者さんが占めています。